

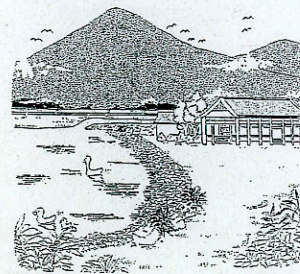
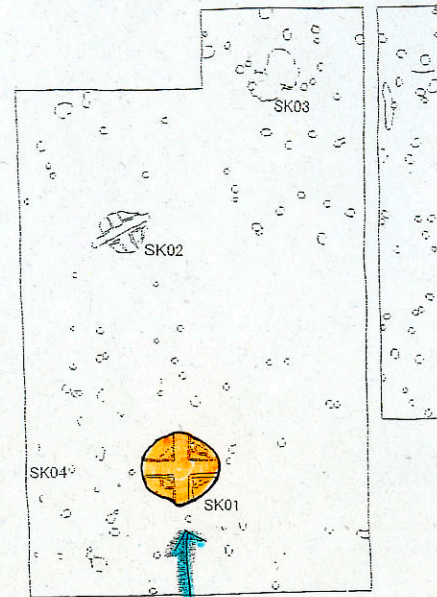
# 意宇の杜 号外!

発行 島根県埋蔵文化財調査センター (0852)36-8608

島根県教育委員会では、平成11年度から史跡出雲国府跡の調査を行っています。調査は、国府域の広がり、諸施設の位置、機能の確認することを目的としています。

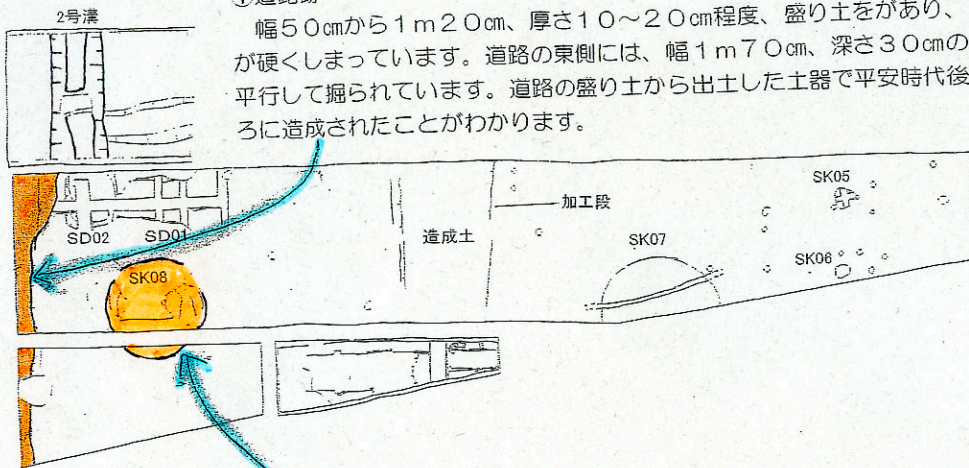
これまでの調査で、史跡公園北側の大倉原地区に「国司の館」、北東の日岸田地区に工房が配置されたと考えられています。

8年目となる今年度は、この二つの地区のあいだ、堂田地区を調査しました。あわせて、公園内の2箇所(トレンチ46・47)でも確認調査を行いました。



## ①道路跡

幅50cmから1m20cm、厚さ10~20cm程度、盛り土をがかり、上面が硬くまっています。道路の東側には、幅1m70cm、深さ30cmの溝が平行して掘られています。道路の盛り土から出土した土器で平安時代後期ごろに造成されたことがわかります。



## ③大形土坑その2

大きさはSK01より少し小さい、直径2m~2m10cm、深さ60cmです。穴の中央が窪んでいます。井戸の筒(井側)を据えた跡でしょうか。井戸として使わなくなったあと、埋められた土の中には、土器のほか、炉壁も混ざっていました。



## ②大形土坑その1

SK08は、直径2m70~2m80cm、深さ60cmもある大きな穴です。もともとは井戸として使われたと推定されます。このなかからは、管や容器などの木製品、木くずなどの有機質なもの、たくさん見つかりました。注目は、イノシシの頭蓋骨、ウメ、モモ、クルミなどの種。食べかすを捨てたのでしょうか。

遺構実測図(S=1/150)

## ④出土品

中国から輸入された陶磁器(白磁など)がたくさんあります。また、出雲国府跡では3点目となる石硯も出土しています。